

【第三種郵便物認可】

ブレスト

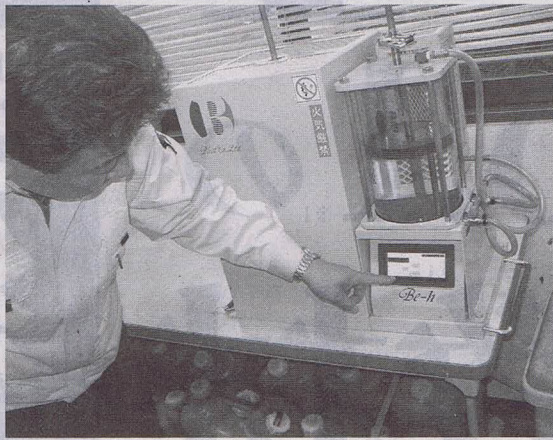
資源の少ない日本に、油田を……。神奈川県平塚市に本社を置くブレスト(伊東昭典社長)は、廃プラスチックを石油に戻す装置を開発・販売する。エネルギーと環境という2つの問題を一挙に解決するための装置で、学校など教育現場に納入しているほか、海外からの注目度も高い。政府開発援助(ODA)を通じて発展途上国などにも設置され、利用の輪が広がっている。

「プラカップ1キログラムで3・5キロワットの発電能力!」

昨年夏、東京・お台場のイベント会場にブレストの「プラスチック油化装置」が置かれていた。「お台場

神奈川のエンジン

廃プラスチック、油に



ブレストの油化装置は、廃プラスチックを石油に戻す

エネ・環境問題、一挙に解決

油田」と名付けられた同装置で電気を生み出す様子を、を含むブラスでは、飲料来場者は興味深そうに眺める。回収。石油に戻し、発電装置の仕組みは一見、単

油田」と名付けられた同装置で電気を生み出す様子を、を含むブラスでは、飲料来場者は興味深そうに眺める。回収。石油に戻し、発電装置の仕組みは一見、単

《会社概要》

- ▽本社 神奈川県平塚市四之宮7の3の1
- ▽設立 2001年
- ▽売上高 2億円弱(14年9月期)
- ▽従業員数 11人(正社員)

純だ。レジ袋やペットボトルのキャップといった廃プラスチックを投入して、緻密な温度設定によってヒーターで溶かすとガスが出る。そのガスを冷却して混合油を精製する。油はボイラーや焼却炉の燃料として

1キログラムの廃プラスチックから1リットルを精製できるという。海外からの関心も高い。「プラスチックを焼却処分するの比べて大幅な二酸化炭素(CO₂)削減にもつながる」(伊東社長)。

重さが50キログラム程度の卓上型(価格は約100万円)から1日の処理量が1ト程度(同約4000万円)まで、装置の大きさは用途に応じて様々だ。

同社の設立は2001年。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の事業採択などを受けて装置を開発した。ニッチな市場ということもあって大手企業の参入は少ないといわれる。リサイクルの原理を目的で体験できるため、教育現場で注目を集める。小中学校から大学まで「スクール油田」として取り組み

「目的分別という啓発活動が重要」と伊東社長は話す。しっかりと分別しないプラスチックは、石油に戻すことも難しい。ODAを通じてパラオなどにも納品している。

5年ほど前に国連大学が同社の装置の動画をインターネット上で紹介したところ、年間1万5000件もの問い合わせがあったという。特に営業活動はしていないが、現在では代理店などを経由して米国やフィリ

東社長の夢は大きい。

神奈川

横浜支局 0445-2201-25551
川崎支局 044-2221-7793